

報告番号	※	第
号	号	

主 論 文 の 要 旨

論文題目 派生語【X化】の日中対照研究

氏 名 李 夢迪

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は日本語の派生語「X化」と中国語の派生語“X化”について、両者の語基Xの違いや意味的・品詞論的な異同について論じたものである。分析にあたっては、「二字語基+化」を中心に、名詞語基、形容詞語基、動詞語基を考察し、日中対照を行うにあたり、「グローバル化」のような三字以上の語基の例も考察対象にした。（「」は日本語、“”は中国語、【】は日中両語併用を示す。）

【X化】は従来、「(小説を)映画化＝(小説を)映画にする」のように、「ある性状・状態に～すること／なること」の意味を表すとされている(田窪(1986)、加納(1990)など)。しかし、「男性が女性化した」「製品が個性化した」「社会が情報化した」など、【X化】は単に「Xにする／なる」とは解釈できない場合もある。そのため、本研究では、【X化】を「名詞語基+化」「形容詞語基+化」「動詞語基+化」に分けて分析し、特に「名詞語基+化」の派生語を日本語は六つのタイプ、中国語は七つのタイプに分類した。

【化】に前接する語基には、【商品化】【複雑化】のような日中両語ともに見られるものもあれば、【*年齢化】【*運動化】のような日中両語ともに見られないものもある。また、「完璧化」「円滑化」のような日本語にしか見られない「X化」もあれば、“汽车化”“结构化”のような中国語にしか見られない“X化”もある。そのため、本研究では①日○中○、②日○中×、③日×中○、④日×中×（「○」は言えるもの、「×」は言えないものを指す）という四つのタイプに分けて、それぞれの語をまとめた。

また、【X化】は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法があり、動詞的用法の中には自動詞として用いられやすいものもあれば、他動詞として用いられやすいものもある。そこで、本研究では、日中両語の【X化】において、名詞的用法になりやすいも

の、形容詞的用法になりやすいもの、動詞的用法になりやすいものに分類した。さらに、どのような【X化】が自動詞として用いられやすく、どのような【X化】が他動詞として用いられやすいかを考察した。本論文は次の8章からなる。

第1章では、「化」の位置づけ、問題点、本研究の分析方法について述べた。

第2章では、【X化】の日中対照に関する先行研究、日本語の「X化」と中国語の“X化”に関する先行研究を概観し、問題点を指摘し、本研究の目的を述べた。

第3章では、日中両語における【X化】の意味を分析した。まず、【X化】を【名詞語基+化】【形容詞語基+化】【動詞語基+化】の3種類に分け、それぞれの場合の意味を考察した。その結果、日本語の「X化」を以下の9つのタイプに分けた。

「名詞語基+化」

- A. 項目変化：語基そのものに変化する（現金化、商品化）
- B. 様式変化：語基の様式によって表現するようになる（数値化、ポイント化）
- C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる
(女性化、幼児化)
- D. 所有変化：語基の表す概念を持つようになる（規格化、構造化）
- E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がる（情報化、電子化）
- F. 量的変化②：語基の表すものに行渡る／広がる（大衆化、全国化）

「形容詞語基+化」

- ・語基の表す状態に変化する（複雑化、特殊化）

「動詞語基+化」

- A. 語基の表す状態を持つようになる（固定化、肥大化）
- B. 語基で表される動作の結果状態に変化する（立法化、外注化）

一方、中国語の“X化”の意味も日本語の「X化」の意味とほぼ同じであるが、「名詞語基+化」の場合において、タイプGが見られることを指摘した。

「名詞語基+化」

- G. 所有変化②：語基が所有者になる（(军队) 国家化）

第4章では日本語の「化」と中国語の“化”に前接する語基を①日○中○、②日○中×、③日×中○、④日×中×（「○」は言えるもの、「×」は言えないものを指す）という四つのタイプに分けて、さらに前接する語基を「語基が一方しかない」「語基が日中同形異義」「語基が日中同形類義」の三つに分け、日中異同を考察し、その結果をまとめた。

第5章では、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を中納言で検索し、100件以上出現した異なり語数で81語、延べ語数で23,674語を抽出し、「X化」が名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法として用いられやすいものに分類した。さらに、「X化」の自動詞用法と他動詞用法に絞って、階層的クラスタ分析お

よび正準判別分析を行うことにより、「X化」を「自動詞優勢語群」「他動詞優勢語群」「自他両用語群」に分類した。「X化」が自動詞として用いられやすいものは1.「深刻化する」「慢性化する」のような「形容詞語基+化」の語、2.「形骸化する」「空洞化する」のような「C.属性変化」を表す「名詞語基+化」の語、3.田窪（1986）で指摘しているように、「重症化する」「複雑化する」のような好ましくない事象を表す語であることを指摘した。これに対して、「X化」が他動詞として用いられやすいものは1.「私物化する」「神格化する」のような「名詞語基+化」の語、特に「グラフ化する」「数値化する」のような「B.様式変化」を表す「名詞語基+化」の語と「制度化する」「構造化する」のような「D.所有変化」を表す「名詞語基+化」の語、2.「無効化する」「最適化する」のような「無-」「最-」で始まる「形容詞語基+化」の語、3.田窪（1986）で言及されているように、「正当化する」「合理化する」のような好ましい事象を表す語であることを指摘した。

第6章は第5章を受け、中国語の“X化”を中心に論じた。まず、北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫を利用し、異なり語数で50語、延べ語数で9,252語を抽出し、“X化”が名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法にとして用いられやすいものに分類した。さらに、“X化”の自動詞用法と他動詞用法に絞って、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行うことにより、“X化”を「自動詞優勢語群」と「自他両用語群」に分類した。“X化”が自動詞として用いられやすいものは1.“低齡化”“白熱化”のような「形容詞語基+化」の語、2.“全球化”“全国化”のような「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の語、3.“民营化”“城市化”のような動作主を顕在化させない語、4.“沙漠化”“個性化”のような変化をもたらす働きかけ手が不特定である語であることを指摘した。これに対して、“X化”が他動詞として用いられやすいものは“拟人化”“公有化”のような人の手を経なければできないことを表す語であることを指摘した。

第7章では、①日中同形語、②BCCWJで100件以上出現した、③BCC語料庫で100件以上出現したという三つの条件を満たした23ペアの語を考察対象とし、これらの日中同形の【X化】の品詞的用法を考察した。その結果、日本語の「X化」は名詞的用法が最も多く、形容詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐことが分かった。これに対して、中国語の“X化”は形容詞的用法が最も多く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐことが分かった。また、中国語には副詞的用法が87件見られたが日本語には見られなかった。さらに、7.2節で【X化する】の動詞用法を中心に考察したところ、日本語の「X化する」は自動詞の出現率（53.8%）が他動詞の出現率（46.2%）よりやや高いのに対して、中国語の“X化”は自動詞の出現率（79.7%）が他動詞の出現率（20.3%）より高いことを明らかにした。なお、【X化する】の受身用法と使役用法を対照したところ、日本語の「X化する」は受身用法の出現率（20.4%）が使役用法の

出現率（3.5%）より高いのに対して、中国語の“X化”はそれと正反対で、使役用法の出現率（27.0%）が受身用法の出現率（1.6%）より高いことを明らかにした。このことから、日本語の「X化」は他動詞的に使われることが多く、中国語の“X化”は自動詞的に使われることが多いことが分かった。

最後に第8章では、本研究の成果についてまとめ、残された課題について述べた。